・授業1週目（DO Week）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスからURLを確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学HPに掲載していますので、以下のURL、QRコード等から詳細を確認してください。

また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■DO Weekから始まる新たな学び

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

・「学則第9条の5対象」について

同志社大学学則第9条の5では、文部科学省令である大学設置基準に規定されている遠隔授業の卒業必要単位数への算入上限を規定しており、学修支援システムDUETやシラバスに掲載している「学則第9条の5対象」は履修中の科目、もしくは単位修得済の科目がその「対象」であるか「対象外」であるかを示すものです。

本学では、2023年度までは新型コロナウイルス感染症における特例措置等により、すべての科目を「学則第9条の5」の「対象外」としています。これにより、すべての修得単位が卒業必要単位数へ算入されるため、この表示に留意する必要はありませんでしたが、2024年度以降は特例措置の適用がなくなるため、この項目に留意して履修計画を立てる必要があります。

所属する学部によって卒業必要単位数への算入上限単位数が決まっており、各科目が「対象」か「対象外」かについてはシラバスで確認してください。詳細については以下URLもしくはQRコードから確認してください。

■「学則第9条の5対象」について

https://duet-man.doshisha.ac.jp/student/article9-5.pdf

社 会 学 部

人材養成目的

社会学部は家族、職場、地域、国際社会に生起する生活、労働、コミュニケーション、人間形成の諸課題について、少人数教育を核とした議論と発表、文献研究、フィールドワーク、計量調査の学習をとおして、客観的で良識に基づく判断力、他者に共感し協力できる感受性、日々の努力を怠らない自制心、難題に向かう気概を身に付けて、企業、行政、マスコミ、福祉等の分野でなくてはならない人材を養成することを目的とする。

CONTENTS

社　会　学　部

§履修の要領 …… 4
§成績評価と単位（GPA制度） …… 8
§開講科目一覧表の見方 …… 10
§科目履修について（卒業要件、履修条件、学科別開講科目一覧）
●社会学科 …… 11
●社会福祉学科 …… 27
●メディア学科 …… 47
●産業関係学科 …… 59
●教育文化学科 …… 67
●社会学研究科科目（同志社大学大学院）の履修について …… 85
●国際専修コース …… 89
●免許・資格関係科目
共通選択科目（免許資格に関する科目） …… 98
自由科目（免許資格に関する科目） …… 105
●日本語・日本文化教育科目　※留学生対象 …… 109
外国語による科目の開講 …… 122
●副専攻制度 …… 129
社会学部副専攻 …… 130
サイエンスコミュニケーター養成副専攻 …… 143
§同志社大学学則、学部一般内規 …… 148
§外国留学に関する諸規程 …… 161
§学業履修について（授業、試験、レポート、窓口受付時間、学業成績） …… 163
§資格について（社会調査士・社会福祉士・精神保健福祉士） …… 168
§父母会文庫・社会学部図書の利用について …… 175
§路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う授業・期末試験の実施について …… 176
§社会学部　専任教員名簿 …… 179

履修の要領

科目履修について

社会学部において学位を取得するためには、**4年以上在学**し、学科で定められたカリキュラムにしたがい、**卒業に必要な単位を修得**しなければなりません。卒業の要件を満たした場合、学科によって次の学位が授与されます。

社 会 学 科…… 学士（社　会　学）
社会福祉学科…… 学士（社会福祉学）
メディア学科…… 学士（メディア学）
産業関係学科…… 学士（産業関係学）
教育文化学科…… 学士（教育文化学）

卒業に必要な科目と単位は学科により異なります。『履修要項』『シラバス』『登録要領』等の説明事項を熟読のうえ、学年始めの所定期間に、その年度に履修する科目の登録手続をとってください。

社会学部授業科目について

●必修科目／コア科目（教育文化学科 2018年度以降生）

学部共通必修科目（選択科目Ⅰ学部共通科目群）と学科それぞれの特色となる科目で構成され、専門知識を学ぶための柱となり、将来その専門性を発展させるための核となる科目群です。

●選択科目Ⅰ／メジャー科目（教育文化学科 2018年度以降生）

必修科目を骨格として、各学科の専門性を充実させるための関連科目群です。定められた条件の中で、各自の関心に応じて履修科目が選択できます。

●選択科目Ⅱ

専門分野を補完するための関連科目として、他の学問領域を学ぶ科目群です。人文・社会・自然の教養分野のみならず、学際科目、免許資格に関する科目、あるいは各種のスポーツ実技や健康管理の理論など、幅広く学ぶことができます。

また、他学部・他学科科目、同志社女子大学の提供する科目、大学コンソーシアム京都の提供する他大学の科目も履修することができます（他学部・他学科科目については当該学部・学科の「履修要項」を確認してください。その中で社会学部生が受講できるのは「社会学部授業時間割表」に記載されている科目に限ります）。

●選択科目Ⅲ

豊かな国際性を身に付けることを目的として、7カ国の外国語を用意しています。卒業単位に算入される科目や単位については、学科によって異なります。

●自由科目

卒業に必要な単位として算入しない科目を自由科目といいます。開講科目一覧表の**「科目群」欄に「自由科目」と表示されている科目**のほか、科目登録時に**登録コードの種別欄に「Z」を付けて登録した科目**も自由科目として扱われます。自由科目は**卒業単位やGPAには算入されません。登録制限単位数には算入されます**ので注意してください。

社会学部が設置する自由科目は、次に説明する**『免許・資格関係科目』**として登録することで、各年次で定められた最高登録単位数とは別に登録することができます。

●免許・資格関係科目

免許資格課程の履修にあたっては、各学部の卒業に必要な単位に加え、各免許資格課程で定められた所要単位を修得しなければなりません。また、授業だけでなく、準備学習や復習など授業時間外の学習の重要性を考慮したうえで、所属学部および免許資格の登録制限単位の範囲内で、1年次から計画的に履修することが要求されます。

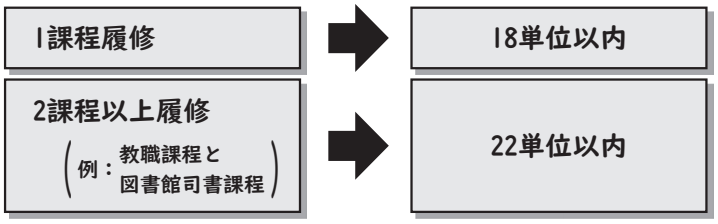
教員免許や図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の資格取得に履修が必要な科目を各年次の最高登録単位数とは別枠で履修することができます。この場合、**『免許・資格関係科目』**として登録します。科目登録時に**登録コードの種別欄に「M」を付けて登録してください**（免許資格に関する「自由科目」にも「M」を付けて登録できます）。ただし、**『免許・資格関係科目』として登録した場合は、卒業単位には算入されません。**また、**社会福祉士、精神保健福祉士等の資格取得を目的とした「M登録」はできません。**

免許資格関係科目の登録種別欄で「M」を選択して登録（M登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「仮登録（一般登録期間に学修支援システム：DUETにて可能）」もしくは「課程登録（説明会出席等の所定手続が必要）」を必ず行わなければなりません。手続方法は免許資格課程や年次によって異なるので免許資格課程センターの掲示で確認を行ってください。

「仮登録」もしくは「課程登録」を行った課程で定められている科目に限りM登録を行うことが可能となります。**「仮登録」もしくは「課程登録」が完了していない場合、M登録することはできず登録エラーとなるので注意してください。**

免許・資格関係科目として**1年間に登録できる最高登録単位数は**、各年次の年間最高登録単位数とは別に、**1課程では18単位、2課程以上の場合は22単位**です。

免許・資格関係科目としての年間登録単位数



なお、各学科の必修科目、選択科目として履修した場合でも、免許・資格の取得には有効です。卒業に必要な単位として算入される科目との違いは下表のとおりです。

科目群の性格

	必修科目 選択科目Ⅰ・Ⅱ	自由科目	免許・資格関係科目 として登録した科目
卒業単位に算入	YES	NO	NO
GPAに算入	YES	NO	NO
免許・資格に有効	YES	YES	YES
年間の最高登録単位数に入るか	YES	YES	NO ただし上記の単位数まで

・免許・資格関係科目についての詳細は、『免許・資格関係履修要項』を参照のこと。

●日本語・日本文化教育科目

日本語・日本文化教育科目は、外国人留学生が一日も早く本学での生活に慣れ、学習研究の実をあげることができるように、また日本語・日本文化を深く学び、日本での学習研究を生きたものにすることができるように設置され、その履修は**外国人留学生に限ります。**

●全学共通教養教育科目

全学共通教養教育科目とは、すべての学部学生を対象とした共通の教養教育カリキュラムのことで、幅広い学問分野において充実した多くの科目を開設しており、本学の建学の精神である「良心教育」を「キリスト教主義」、「自由主義（自治自立の精神）」、「国際主義」という3つの教育理念に基づき、リベラルアーツ教育の伝統を受け継ぎながら現代において展開しています。そして、教養教育をつうじて設立者新島襄が願う、良心と自治自立の精神に満ちた、国際社会に貢献できる人物を多く輩出したいと考えています。

全学共通教養教育科目には「科目群」と「科目区分」というグループ分けがあります。

「科目群」は「同志社科目群」、「基礎学術科目群」、「グローバル教養科目群」、「イノベーション創出科目群」の4つがあり、「科目区分」はそれらに属します。

※詳細は全学共通教養教育科目履修要項を参照のこと。

特色ある社会学部の履修制度

●副専攻制度

社会学部では、学生の学びたいという意欲をサポートし、柔軟な思考と広い視野を身に付けるために、2つの副専攻制度を導入しています。

各自の興味関心に応じて所属学科以外の分野などの副専攻科目群を選択し、複眼的で柔軟な視野から現代社会を分析し、それに対応できる能力を養うことを目指します。

学部内の他学科主要科目を並行して受講する副専攻に加えて、「国際社会」「社会心理」「ジェンダー」の3つは、横断的に組み立てられる副専攻で、構造化されるように指定された科目群を受講します。これらの副専攻を修了した場合、卒業時に修了証明を発行します。

・詳細はP.129以降に掲載しています。

●国際専修コース

社会学部では、「国際専修コース」を開設しています。このコースでは、所属学科設置科目の履修を基本としつつも、国際教育インスティテュート（ILA）国際教養コースの留学生と一緒に『国際教育インスティテュート科目』（全て英語による授業）を履修することができます。

学部共通のカリキュラム

社会学部の学部共通カリキュラムは、全学共通教養教育科目（外国語教育科目を含む）と、学部共通科目の2つの科目群で構成されています。

大学での学問の基本となる教養教育、外国語教育、情報リテラシーに力を入れているのは、同志社大学の全学部に共通する特色です。導入科目に属する「ファーストイヤーセミナー」では、大学や学部での学問のベースとなる力をしっかりと身に付けます。

同じく導入科目の「学部共通科目」は、専門科目を学ぶための出発点となる科目です。現代社会論、社会問題論、マス・コミュニケーション論、現代社会と労働、多文化共生社会と教育文化といった、各学科のベースとなる科目を網羅しています。

「現代社会論」では、家族、学校、企業、地域など人間が集まっている状態を構造的に理解する手がかりを示します。「社会問題論」では、“社会の底辺に向かう志”を見失うことなく、現実の社会問題を見つめる態度と方法を実践的に示します。「マス・コミュニケーション論」では、多様なメディアの現状と問題を取り上げ、その社会的役割、情報の読み方、発信の仕方などの原理的、実際的方向を示します。「現代社会と労働」では、仕事の態度や能力、就職活動や雇用などの実際問題に向かう学問を示します。「多文化共生社会と教育文化」では、人間形成の意義と日本における新しい流れと、国際的な動向と多様な文化を取り込む教育の役割を示します。

これらの学部共通科目は、副専攻を履修するときにも有効です。

カリキュラムマップ・カリキュラムツリー

カリキュラムマップとは、学生が身に付けることが期待される知識・技能・態度等、学修目標として示される項目と授業科目との間の対応関係を示した図のことを指します。

カリキュラムツリーとは、カリキュラムにおける履修の体系性を示すため、授業科目相互の関係や学修の道筋等を表した図のことを指します。

カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを確認することで、カリキュラム全体を俯瞰することができます。詳細については下記のホームページにて案内しています。

社会学科
https://ss.doshisha.ac.jp/ss/soc/policy.html
社会福祉学科
https://ss.doshisha.ac.jp/ss/sw/policy.html
メディア学科
https://ss.doshisha.ac.jp/ss/med/policy.html
産業関係学科
https://ss.doshisha.ac.jp/ss/ind/policy.html
教育文化学科
https://ss.doshisha.ac.jp/ss/edu/policy.html

科目ナンバリング

各科目には科目ナンバリングが定義されています。科目ナンバリングとは、授業科目に番号・分類を付与することで、学修の段階や順序が分かるように表示したものです。各科目の履修水準や学問分野を参考に履修するだけでなく、留学先の大学で授業を履修する際、本学授業科目との単位互換の目安として利用することもできます。必要に応じて活用してください。なお、科目ナンバリングについての詳細は、下記のホームページを確認してください。
https://clf.doshisha.ac.jp/numbering/numbering.html

その上で、学部によっては、他学部の科目について、当該学部が定める科目ナンバリングの履修配当年次または履修を推奨する年次と、本学部で認める配当年次が異なる場合があります。

成績評価と単位

～成績評価はGPA（Grade Point Average）制度によって行われます。

GPA制度とは

履修した科目の成績は科目ごとに5段階〔Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｆ〕で評価されます。また、科目ごとの評価とは別に、履修した科目全体の評点平均値はGPAとして算出され、在学中の履修成績として成績原簿などに記載されます。

なお、「Ｆ」評価を得た科目は単位の修得が認められません。

〈GPAの判定基準〉

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

上記段階評価以外の評価は、「合格」「不合格」「認定」となります。

「自由科目」はGPAには算入されません。

〈GPAの算出方法〉

$$\frac{Ⓐ\times4.0+Ⓑ\times3.0+Ⓒ\times2.0+Ⓓ\times1.0+Ⓕ\times0.0}{Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ+Ⓕ}$$

（Ⓐ～ⒻはＡ～Ｆの評価が付いた科目の単位数の合計）

Ｆ評価科目もGPAに算入されますよ！

Ｆ評価科目の書き換え

GPA制度ではＦ評価科目の成績も含めて、1単位あたりの評点平均値＝GPA（Grade Point Average）を算出します。なおＦ評価科目を再履修してＤ以上の評価を得た場合、GPAは最後に付いたＦ評価のみ新たな評価に書き換えて算出されます。

例1）Ａ科目を2024年度に履修してＦ評価であった。2025年度にＡ科目を再履修してＣ評価を得たときの成績は？

→ 2024年度の成績が書き換えられ2025年度のＣ評価が付く。

	Ａ科目評価	GPA算入	
2024年度	F	×	（2025年度のＣ評価によって書き換えられる）
2025年度	C	○	

例2）Ａ科目を2024年度に履修してＦ評価であった。2025年度にＡ科目を再履修してまたＦ評価であった。2026年度にＡ科目を再履修してＢ評価を得たときの成績は？

→ 2024年度のＦ評価が書き換えられなくなり、Ｆ評価として確定する。2025年度のＦ評価（最後についたＦ評価）は2026年度のＢ評価に書き換えられる。

	Ａ科目評価	GPA算入	
2024年度	F	○	（2025年度のＦ評価によってＦが確定）
2025年度	F	×	（2026年度のＢ評価によって書き換えられる）
2026年度	B	○	

GPAに算入されない科目

単位互換科目、単位認定科目

同志社女子大学や大学コンソーシアム京都の単位互換制度や早稲田大学学部交流生制度、在学留学制度などによって履修した単位はＡ・Ｂ・Ｃ…評価ではなく、「合格」「不合格」「認定」によって評価されます。これらの評価については評点の算出を行わず、GPA算出の対象にはなりません。

合格／不合格評価の科目

【全年次生】

「Intensive Courses for TOEFL（Practice)*1」、「Intensive Courses for TOEFL（Tutorial)*2」、「教職実践演習（中・高)」、「データサイエンス概論」「同志社の良心とダイバーシティ」等

→ 合格評価を得た場合は、24単位を上限として卒業必要単位数に算入されます。

※*1・*2は、2022年度以前のみ開講されていた科目です。

自由科目

①「自由科目」群として設置される科目

「単位を修得しても卒業単位に算入されない科目」を自由科目といいます。同時に自由科目の評価は、GPAにも算入されません。『履修要項』に「自由科目群」として定められていますので、登録履修の際によく確認をして登録してください。なお、自由科目として登録する単位数は、1年間の登録制限単位数に含まれます。

②自己申告による「自由科目」

「履修をしたいが、GPAの対象としたくない」ような場合、科目登録時に、登録コードに「Ｚ」の記号を付与すると「自由科目」として履修することができます。ただし、①と同様、自由科目として登録履修した科目の単位は、卒業必要単位として認められませんので注意してください。また、1年間の登録制限単位数に含まれます。

その他の制度

●追試験制度

学部学生（科目等履修生を含む）の全年次生を対象として病気またはやむを得ない事由により、春学期および秋学期の終りに実施される定期試験、ならびに臨時試験（中間テスト等）を受験できない場合、追試験の申請を行うことができます。対象者は定められた期間に事務室に申し出てください。

●成績評価結果の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラス毎の平均点や、評点の分布を大学ホームページ上でシラバス等とリンクして公表します。

●クレーム・コミッティ制度

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、社会学部事務室に相談してください。学部・研究科で相談の内容を確認後、必要に応じて各学部等のクレーム・コミッティが事実関係を調査し、クレームに関わる一連の対応について回答します。なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が科目担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

開講科目一覧表の見方

登録コード

科目を特定する「科目コード」とクラスを特定する「クラスコード」で構成されています。クラスコードが明記されている科目は、科目登録の際、両方のコードを正しく記入してください（登録コードが記載されていない科目については、次年度以降に開講します）。

科目名・クラス

〇で囲んだ数字はクラスを示します。

科目名が同じで、クラス番号が違う科目は特別に認められている科目を除いて、2クラス以上履修することはできません。

期間・時間

授業の開講される期間と週時間を表します。週時間は1講時分（90分）を2時間とします。

例）

春2：春学期に開講。週2時間（1講時）

秋4：秋学期に開講。週4時間（2講時）

春秋2：春学期～秋学期（通年）に開講。週2時間（1講時）

春集中：春学期に集中講義方式で開講。

秋集中：秋学期に集中講義方式で開講。

集　中：講義が行われない科目を含む。

履修年次

履修ができる学年を示します。

例）2～：2年次以上で履修できる科目です。

2　：2年次で履修すべき科目です。

他学部生履修可否

可：他学部、他学科の学生も受講できる科目

※可：受講できる学部・学科が限定される科目

不可：他学部、他学科の学生は受講できない科目

※：欄外の注記のとおりとする科目